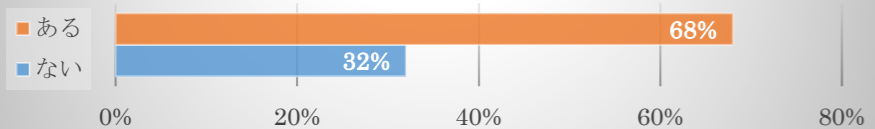


新採アンケートをとりました！

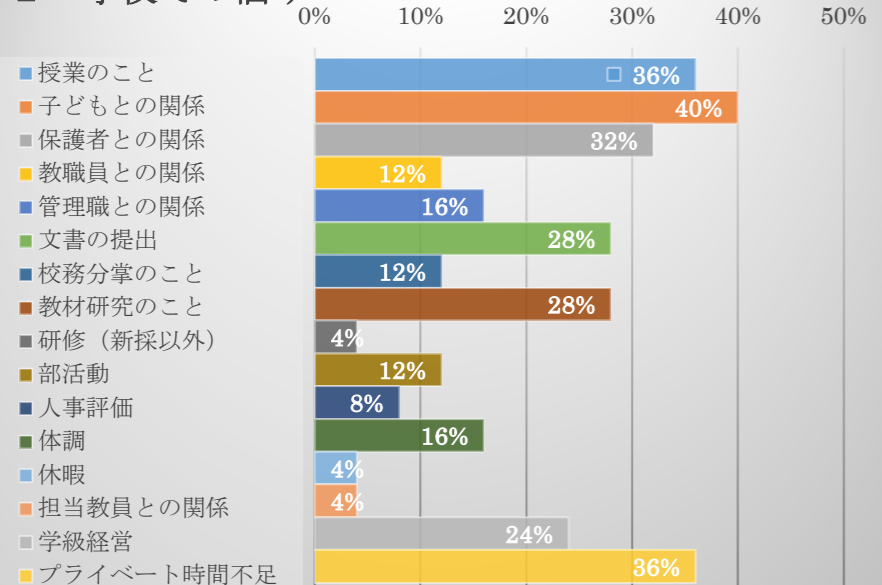


この中で、一番忙しいと感じておられたのが初任研のレポートでした。研修のたびに毎週提出することになり、そのために夜遅くまで残ったり、土日に学校に来ている人もいます。組合では、負担が少しでも減るように初任研のレポートの参考になるデータが閲覧できるようにしました！

1 初任研での負担感



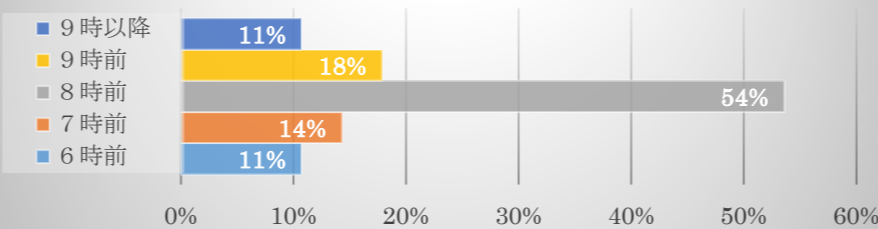
2 学校での悩み



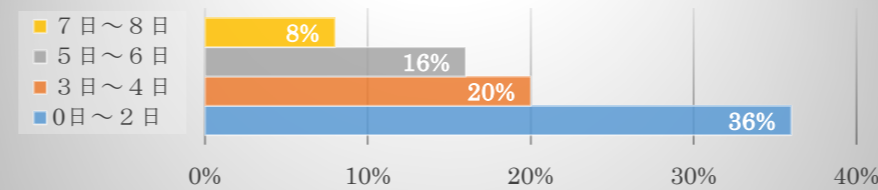
- 指導者のパワハラに近い言い方、学ばせてもらっているから自分のためになると思うようにしています。
- 指導案を書く授業が多すぎました。書かなくても見に来られる(指導して頂く)ことも何回もあるので、わざわざ書いて授業をする必要性を感じられませんでした。
- 毎日のレポートをどのくらいの字数で書けばいいのか分からないので、例があるとありがたいです。たくさん書かなければならないのかと思っています。
- 研修が毎週あり、その度にレポートを書かなければならないので大変。研修で自習ばかりになり授業が進まない。
- 私は学校の1年間の動きが分からず、ついていくのに必死でした。
- 校務分掌や文書等の提出についても分からず、他の先生方に頼ってしまった。
- 教職経験がある新採なので、レベルを高められるのが困ります。

「働き方改革」にも取り組んでいます！

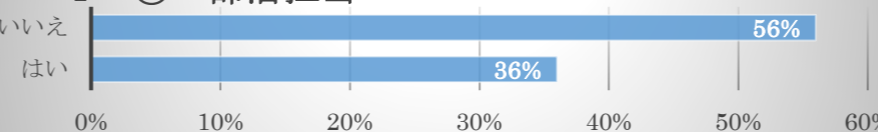
4-③夕、学校を退勤する時間



4-④ 一月の土日の出勤日数



4-⑤ 部活担当



- 一年目だから無駄だと思うこともしないと、後々気づかないで困ると思うが、土日ほとんど学校に行かないと仕事は終わらない。
- 1年目なので多少無理をしないと一人前にはなれないと思う反面、これからの後輩達が同じようにしていけるのか？心配。
- 部活により、自分の家族との時間がなくなるし、手当が少ないし、教材研究の時間がとれない。
- 土日が休めず(休みづらい)、体調を崩しやすくなった。やりがいはあるが、負担が大きい。
- 平日は19時まで部活があり、土日でも部活で潰れプライベートはありません。レポートや計画案作成で残業をしています。働き方改革は仕事量を減らさないと無理だと思います。

昨年のアンケートと比べると、学校での悩みでは、文書の提出とプライベートの時間が不足というのが増えました。土日の出勤は、0～2日がとても増えました。部活の新採の担当者も減りました。昨年のアンケートを元に、組合として教育行政に対し新採の負担を減らすよう要望してきた成果だと言えます。それでもまだ、土日に学校で仕事をしている教職員が多いのは、「働き方改革」の中でさらなる取組をしていかなければなりません。



新採として、今感じていること

- 小規模校でも校務分掌の多さには慣れましたが、四苦八苦しています。夢を持って憧れ、努力して職に就きましたが、自分の存在意義を感じられないのが現状です。職員間の人間関係はひどいです。校内研でのグループもこれでいいのか？疑問です。校長室に閉じこもっている管理職に評価されるのが残念です。
- 4月、何も分からないまま手探りの状態で1学期を過ごしました。学級経営や授業なども、座学で学んでも実際に見て勉強しないと分からないのに……1年目から担任でなく副担任であればいいのにと内心思っていました。しかし、たくさんの先生方の助言をいただきました。授業を見せてもらい成長できました。辛いことが多く学校に行きたくないと毎日思っていたのですが、子どもたちのちょっとした言葉や先生方の声かけがあったからです。職場環境は大事だと思いました。少しでも無駄な業務が減って働き方がよくなることを願ってこれからがんばります。
- 「働き方改革」とよく言われますが、実情は多忙ですることが多すぎ、無駄なことが多いです。家庭があるので早く帰りたいが帰りづらい。することが多すぎて教材研究の時間がない。「早く帰れ」と管理職から言われるが、仕事が減らないので帰れない現実。初任研で3回、指導力向上で3回、校内研で1回、学校訪問等で3回指導案を書かなければなりません。子どもと向き合う時間の方が大切ではないかと思います。



夢と希望を持ち続けるためにも！

「働き方改革」に関する意見が数多く見られました。行政に現場の声を届けるのは組合しかありません。学校現場の働き方に注目が集まったのも全国の組合の力があつたからです。県によっては、新採が90%以上加入するところや管理職が組合加入を勧めている県もあります。全国的には新採の6割近くが加入しています。

3月に文科省から働き方のガイドラインが出ます。それをもとに各市町村でも作成されますが、それに意見や交渉ができるのが法的にも認められた職員団体(組合)だけです。数が多ければそれだけ影響力も大きいと言えます。誰かがしてくれるのではなく、今の教育現場を変える力になってほしいと思います。

前田康裕(熊大准教授)著
学校現場の働き方に一石を投じた本です。

